

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名	一般国道23号 <small>ちゅうせい</small> 中勢道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	自： <small>みえ すずか きたまがき</small> 三重県鈴鹿市北玉垣町 至： <small>みえ まつさか おづ</small> 三重県松阪市小津町	延長	33.8km		
事業概要 中勢道路は、現国道23号の交通渋滞を緩和するとともに、交通事故減少と地域開発等を支援し、地域経済の発展に寄与することを目的に計画された延長33.8kmの4車線バイパスである。					
S59年度事業化		S58年度都市計画決定		S61年度用地着手	
S63年度工事着手					
全体事業費	約1,900億円	事業進捗率	53%	供用済延長	暫定15.5km
計画交通量	43,200台/日				
費用対効果 分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年	
	(事業全体) 1.8 (残事業) 4.3	695/1,968億円 事業費：657/1,898億円 維持管理費：38/69億円	2,971/3,595億円 走行時間短縮便益：2,656/3,225億円 走行経費減少便益：266/318億円 交通事故減少便益：49/52億円	平成20年	
感度分析の結果 残事業（事業全体）について感度分析を実施 (残事業) 交通量変動：B/C=4.7 (交通量+10%) B/C=3.8 (交通量-10%) 事業費変動：B/C=3.9 (事業費+10%) B/C=4.7 (事業費-10%)					
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（現道等の年間渋滞損失時間及び削減率等） ・物流効率化の支援（重要港湾もしくは特定重要港湾へのアクセス向上が見込まれる等）他15項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見 中勢道路は、地域支援の推進、交通混雑の緩和等に主要な役割を果たすことが期待されており、津市をはじめとする関係3市の首長で構成される中勢バイパス建設促進既成同盟会より早期の全線供用開始の要望を受けている。（平成20年9月）。また、平成20年11月には三重県知事からも県は早期全線開通を考えている旨の提言・要望を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 国道23号の交通量は約440～約650（百台/日）で依然として高い値であり、中部国際空港に連絡する海上アクセス港（津なぎさまち）への定時性を確保するためにも交通混雑の緩和が重要となっている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 現在までに約15.5kmを部分供用。全線で約46%の進捗となっている（H20年度末暫定形延長ベース）					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成23年度に13工区3.9kmを暫定供用予定。平成20年代中頃までに全線暫定供用予定。					
施設の構造や工法の変更等 高架計画の見直しや新技術新工法（少数主桁の採用等）でコスト縮減を図る。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				
事業概要図 					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。